

コース	Cコース
プログラム	ウィーン大学 ドイツ語
渡航国	オーストリア
渡航期間	4週間
所属学部	国際教養学部

この度、「2022年度 第二クォータープログラム ウィーン大学 4週間ドイツ語研修」に参加させていただきました。横浜市立大学からは私一人の参加でしたので、初ヨーロッパかつ初一人海外というとても貴重な体験をすることができました。

渡航初日、なんとか寮に着いたものの周りに頼れる人がいなく、少し不安でした。しかし、先に着いていたウクライナ人のルームメイトが快く迎え入れてくれ、さらにウィーン大学でのドイツ語の授業が始まると周りの人たちが優しく声をかけてくれ、とても心強かったです。特に他大学の日本人と知り合ったことで、母国語での意思疎通ができたことには大いに安心しました。

クラスはレベルごとに分けられ、国籍・年齢は全く関係ありませんでした。私のクラスには高校生のコロンビア人、子どもがいる30代のギリシャ人、教師である50代のウクライナ人など、様々な人たちがそれぞれの理由でドイツ語を学びに来ていました。特に教師である50代のウクライナ人の方は、「今は戦争が起きているがためにオーストリアに住んでおり、オーストリアで職を得るためにドイツ語を学びに来た」と私に教えてくれ、少し遠く感じていた戦争が一気に身近なものになった気がしました。

私は一番下のレベル（A1/1）でしたので授業は基本の挨拶から始まり、ドイツ出身の先生はとても優しく丁寧に授業をしてくださいました。指定された教科書に沿って授業が進められプリントとノートを使って学習したのですが、特に重要視されたのが「会話」だと思います。基本的なフレーズと単語を確認した後、いろいろな人とペアになってたくさん会話をしました。ここで少し難しかったのが発音です。私と同じ日本人のドイツ語の発音は聞き取りやすいのですが、日本人以外のドイツ語の発音は英語と同じように聞き取りにくいことが多々ありました。それでも何度も交流を繰り返したことで、少しずつわかるようになっていったのが嬉しかったです。また特に印象に残った授業は、みんなで外に出て男性名詞・中性名詞・女性名詞・複数名詞を、全身を使って学習したことです。男性名詞の単語だったら一步前に、女性名詞の単語だったら一步右にというように、ゲーム感覚で学習したことで、覚えるのが大変なドイツ語の名詞の区別をとても楽しく学習するこ

とができました。そして、授業後はドイツ語での簡単な作文やワークブックの記入などの課題がありましたが、私にとっては復習するのに丁度いいものでした。

授業は平日の 9:15~12:00 までで、午後はフリーでした。ウィーン大学ではドイツ語の発展的な学習からウィーンの街歩きといった様々な無料・有料プログラムが実施され、私はウィーン旧市街地巡りとウィーン大学キャンパスツアーに参加しました。この二つはそれぞれ 15 ユーロずつかかったのですが、自分では行かなかったかもしれない場所にも行くことができ、参加してよかったと思います。また、ドイツ語でのガイドもありましたが、正直私には聞き取ることはできませんでした。しかしこれを機にまたドイツ語の学習を頑張りたいと思いました。

また、平日の午後や休日を利用してウィーンでの観光も楽しむことができました。カフェ文化のあるウィーンにはたくさんのカフェがあり、私は特にザッハトルテで有名な「Sacher (ザッハー)」と「Demel (デメル)」というお店でザッハトルテの食べ比べを楽しみました。また、ウィーンで有名な「Schnitzel (シュニッツェル)」というカツレツのような料理は特に私のお気に入りです。食べ物の他にも、Gustav Klimt (グスタフ・クリムト) の有名作品「Der Kuss (接吻)」が展示されている「Schloss Belvedere (ベルヴェデーレ宮殿)」やシシィの愛称で親しまれるオーストリア皇后エリザベートが夏の離宮として使用した「Schloss schönbrunn (シェーンブルン宮殿)」などに訪れ、オーストリアの文化・歴史も学ぶことができました。さらにウィーンでは音楽が有名ですが、「Wiener Staatsoper (ウィーン国立歌劇場)」にてモーツァルト・コンサートも鑑賞することができました。シーズンオフのために観ることができなかったオペラとミュージカルはぜひいつか観に行きたいと思っています。

1ヶ月間、ドイツ語の学習とオーストリア観光でとても充実した時間を過ごすことができました。この留学を通して以前よりもドイツ語が好きになり、また話すことができるようになり、もう少し勉強を続けてみたいと思いました。同時にオーストリアの歴史や文化も学ぶことができ、私が専門としたい学問は西洋史なため、今後の大学での学習にも役立つことができるのではないかと思いました。そして、言語の壁を超えてこの留学を乗り越えた経験は私にとって大きな自信となりました。この自信を今後の挑戦に活かせたら良いなと思います。

最後に、ウィーンから見える天気の良い日のドナウ川は、とても美しい青色でした。あの美しい街並みやドナウ川をまたいつか見に行けることを願っています。